



会長 紺野 広 青少年奉仕 夏川戸 斉
副会長 橋本 昭一 幹事 松本 剛典
クラブ奉仕 橋本 昭一 会計 妻神 和憲
会長エレクト 橋本八右衛門 会場監督 佐々木泰宏
職業奉仕 道尻 誠助 直前会長 小林 幹夫
社会奉仕 岡崎 孝文 副幹事 小田山紀暢
国際奉仕 鶴飼 寿栄 会計補佐 小井田和哉

例会日 毎週水曜日 12:30 例会場 八戸グランドホテル
事務所 八戸市番町14 八戸グランドホテル内
電話 (43) 0608 FAX (43) 0661
e-mail rc8@vc.hi-net.ne.jp
http://hachinohe-rotary.org/
会報・広報委員長 峯 正一 同副委員長 上村 奉樹
同委員 妻神 和憲 同委員 野村 一雄

国際ロータリーのテーマ — 2023~24 — 八戸ロータリークラブのテーマ

世界に希望を生み出そう

和而不同 (わじふどう)

国際ロータリー会長 ゴードン R. マッキナリー

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広

2月 は 平和と紛争予防 / 紛争解決月間です

第3301回例会 2024.1.31

大規模災害における

相談業務の支援協力に関する協定締結式

2024年1月31日

紺野会長：きょうは普段の例会とはちょっと違った形で記者会見もありますので、よろしくお願いいたします。

会長要件 紺野 広 会長



最初に1月25日にご逝去されました当クラブ会員、川村幸雄様に黙祷を捧げたいと思います。ご起立お願いします。享年75才でした。(黙祷)

ゲスト・ビジター紹介

【来賓】

・熊谷雄一八戸市長・八戸RC名誉会員

ご当選以来2年間八戸市をしっかりと引っ張っていただいております。本来名誉会員としての卓話もお願いしたいところでしたが、きょうは時間がタイトですので、次回お願いすることといたしたいと思います。

・佐々木勝弘危機管理部長

新しくできた部門で、これから一緒にやっていきたいと思います。健康部長時代はコロナ対策と一緒にコロナと闘ってきた盟友のような方です。

・下村晃一危機管理部次長兼危機管理課長

・高村勝典災害対策課長

・氣田卓実危機管理課危機管理グループリーダー

・東山朗大危機管理課主事

【ゲスト】

取りあえず、最小単位で八戸市と八戸ロータリークラブで本日、大規模災害時における相談業務の支援協力に関する協定締結を行います。これが南グループ、それから県に広がっていくことを期待しています。そういう意味合いを込めてご招待させていただきました。

・吉田賢治南グループガバナー補佐

・小林弘文八戸北RC会長

・工藤亮夫八戸中央RC会長

・大橋央雅八戸南RC会長

・林 克己八戸東RC会長

きょうのプログラムにはNTTの鈴木隆広

さんから10分ほどの卓話をお願いしています。災害に関する卓話は鈴木さんで7人目です。能登半島地震が起きてから当クラブで八戸市の災害対策を考える上で災害の時にクラブ員が日頃どういう活動をしているかを知ろうという試みの中での7人目のスピーチです。以降、DPAT精神科医療に関する話、実際に行かれた深澤隆先生の話、葬儀関係については山村和芳さんからお話。山村さんは東日本大震災の時にやはり宮城県方面に出かけ、無縁仏の方々の葬儀に携わってこられました。

幹事報告 松本 剛典 幹事



①能登半島地震への支援金お願いについて：受付期限は2月2日(金)です。1口5,000円から何口でも構いませんのでご協力をお願いします。お振込み以外でも事務局へ直接お渡しいただいても結構です。

②近隣クラブの2月の例会変更について：メーカーご希望の方はお間違いのないようにお願いします。

③2月4日(日)に開催されます八戸市競技カルタ小中学生大会について：お陰様で16名のロータリアンにお手伝いしていただくことになりました。小中学生の参加人数、ボランティアの数も昨年より増えましたので、賑やかで楽しいカルタ大会になると思います。

当日のスケジュールは南部会館8：40集合、9：00受付、9：15開会式。競技開始。閉会式は12：30を予定しています。ただし、南部会館の駐車場がご利用できませんので、お車でお越しの際には近隣の駐車場をご利用ください。

委員会報告

親睦・会場委員会

○ニコニコボックスの紹介

工藤亮夫 } 本日は、宜しくお願いま
大橋央雅さん } す。

橋本八右衛門さん 本日、夕方「わっち」で
ます。

地代所久恭・小井田和哉 } ニコニコデー
夏川戸 齊・道尻誠助さん }

災害時対応に関するスピーチ：鈴木隆広さん
(NTT東日本八戸支店長)



NTT東日本の災害時取り組みについてご紹介いたします。

1月の能登半島地震への対応で、現在も対応中ですが、

弊社の対応をご紹介します。

土砂崩れ、液状化という形で電柱や配管が崩れていて通信断になっている事象がたいへん多くあります。現在は電力と連携しながら電柱を建てつつ、障害復旧をさせてもらっています。具体的には、171災害伝言ダイヤル、公衆電話の無料開放をしています。停電に関しては弊社は非常用電源、電源車を利用しながら停電対応と局舎の電源供給をしています。ヘリでの資材運送、技術者の輸送、ドコモとも連携しながら衛星電話やスターリングを活用しながら、避難されている方々の通信の確保をしています。弊社グループのマテリアルと連携しながら水不足解消の機材を持っていったり、リエゾン、相互連携も含めて情報収集と発信をさせていただいています。まだまだ災害復旧は必要ですので、情報が入りましたら連携させていただきたいと思っています。

少し前になりますが、青森で起きた豪雨災害の対応についても紹介します。下北エリアの被災状況ですが、こちらも土砂崩れで橋が流されたりで多くの通信障害が発生しました。当然電源も来ないということもあり、弊社局内のビルに関してはバッテリーもありましたが、そちらの対応をしました。実際の活動状況は電柱が倒れたり、橋が流されたりがあり、われわれエンジニアも車で行けないところは徒歩で回りながら現地確認をして、どういう形で復旧させるか、道路をどうやって開けるかなど、自治体と連携しながら電柱を建てて

いきました。流された橋は橋と共に配管を通してケーブルを回していく。傾いた電柱、国道279号線沿いの建柱作業をして、ケーブルを曳いて通信を確保する形で対応しました。

災害対策本部リエゾンにも弊社から送らせていただき、電力やKDDI、自衛隊の皆さんと連携しながらどういう形で復旧していくか、今どうなっているかを対応させていただきました。県の対策本部の県庁にも入らせていただいて今回は対応しました。また、むつ市も同じように入らせていただいて、本部長はむつ市長、消防署も入ったり、自衛隊、電力と連携しながら対応させていただきました。県庁や各市役所にお邪魔して情報交換をさせていただき対応させていただきました。

停電対応ですが、風間浦が停電エリアになっていて、蓄電池の保持時間が約40時間でした。電源車を運ぼうとしましたら、なかなか難しいところもあり、函館から船で一旦大間に運んで、陸路を通過して風間浦に行こうとしましたら、途中で橋が落ちて陸路が使えない。それで大間からサルベージ船を使って電源を運ぼうとしたそうです。なかなか停電もないのですが、そういったところでも海路を使ったりで局の電源を復旧させようとした事例がありました。こちら電力がすばやく対応いただき、電源車を移動させて配備している途中で給電されました。

東日本の全体的な災害について、弊社もいろいろと災害対策をさせてもらっています。1960年代から2020年代まで、2011年には東日本大震災がありました。過去でいうと電柱や電線などのハードを中心とした対策をメインにさせてもらっていました。世田谷の経堂で火事があった場合には燃えにくいケーブルを活動したりなどハード的なものがありました。今は情報を活用したもの、ソフト面の対策、避難としてわれわれが何ができるのかを提供させてもらっています。

災害に対してどういったことが必要か、何が必要か。停電の場合は全体的に電源供給車が必要。家屋の被害の時には罹災証明のシステムにどういったことが必要か。浸水に関し

てもIOTなどを活用することでうまく情報が集まるのではということを検討しているところです。

災害対策のハードでは電源車、ドローンを活用していろいろ見えています。ハード以外にもわれわれは災害に強い町作りということで自治体とも連携しながら、われわれに何ができるかを進めているところです。防災のコンサルをさせていただく、自治体以外にも大学の皆さんと連携しながらどういったことが使えるかというソリューションを研究したり、当然地域の情報管理、弊社にあるビルを使って避難所にする、元々われわれでも備蓄していたものをその時には他のところに持っていくなどを検討しながら、防災に強いまちづくりを今進めているところです。

われわれは地域の皆様と連携しながら防災に強いまちづくり、弊社のアセットを活用しながら安心安全なまちづくりに対して、われわれでも検討しているということです。

締結式準備（10分）

締結式

司会進行：八戸市危機管理課危機管理グループリーダー 氣田卓実



只今より、大規模災害における相談業務の支援協力に関する協定締結式を開催いたします。本日の締結式は13：30までとなっております。

①出席者紹介

八戸ロータリークラブ様 出席者紹介
八戸ロータリークラブ
紺野 広会長
橋本昭一副会長
松本剛典幹事
橋本八右衛門次期会長

他36名の会員の皆さま

八戸市側出席者紹介
熊谷雄一八戸市長
佐々木勝弘危機管理部長
下村晃一危機管理部次長兼危機管理課長
高村勝典八戸市災害対策課長

②大規模災害における相談業務の支援協力に関する協定の概要説明

この協定は、大規模災害が発生した場合に、八戸市の要請に応じて、八戸ロータリークラブに属する医師、薬剤師、弁護士、公認会計士、税理士、社会保険労務士、建築士等の専門的知識を有する会員の方々が、各会員が取り扱うことのできる範囲において、被災者等を対象とした相談業務を実施するものであります。

③代表者挨拶



熊谷八戸市長：今、紺野会長と座ってご挨拶をしましょうとしましたので、着座でのご挨拶、失礼いたします。

本日はわたしと昨年4月に設置した危機管理部の職員もお招きいただきましてありがとうございます。このたび八戸ロータリークラブ様のご協力によりまして、協定を締結できますことに感謝を申し上げます。

この協定は先ほど司会者の方からもお話がありました通りに、大規模災害が発生した際に被災者支援のためにロータリークラブの皆様方のお力をお借りしながら、相談業務におけるご支援をいただくものであります。1月1日に能登半島地震が発生いたしまして、多くの被災者の方々が今後の生活や就労に関わるさまざまな不安を抱えていることと思います。

かつて、東日本大震災が発生いたしましたときに、八戸市もはっちにおきまして総合的な窓口業務を行いました。今回この協定におきまして、被災者の方々が一日でも早い生活再建を実現するために、災害ケースマネジメントという考え方のもとに、官民連携によりまして効率的な支援につながることはたいへん有意義なものだと考えております。

当市といたしましても、今後とも更なる市民の安心、安全の向上のために防災対策を推進して参りますので、引き続きの皆様方のご協力をお願い申し上げまして、わたしからの

ご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

八戸ロータリークラブ会長 紺野 広



この協定は昨年末から市と協議をして、その最中に令和6年能登半島地震が起きました。現在4県35市11町1村に災害救助法が適用されてい

ます。死者は236名。そして避難所数489に上っています。一次避難、二次避難それぞれより良い生活を求めて、避難者の方は移動しています。避難者数はあまり変わっていませんが、避難所数は連日のように30、10、20を超える増加を見えています。それぞれが今後の生活を見据え、移動しながら医療受給の整った、教育の整った場所に移動しているということかと思えます。

わたしが所属する八戸赤十字病院では東日本大震災の時は延べ8か月にわたる活動を行って参りました。おそらく能登も8か月どころではない、長期的な支援が必要になるのだらうと思えます。一方、急性期にはこの前のコロナ禍もそうでしたが、ひじょうにバランスの悪い需要が生じます。わたしが発熱外来を担当したときは委託で電話を受けてくださっている方は電話を置けばすぐなる電話、それが夜通し続きましたので、ある時間帯から電話を取らなくなってしまいました。代わりにわたしが電話を取り、そして夜間の駐車場での発熱外来を診ることがありました。行政でも保健所の方では連日夜半にわたる超過勤務をしながら、市のコロナ感染症対策に従事していただいています。

総合的な施策をする上で行政の機能がマヒしては絶対いけません。コロナ禍でわたしはひじょうにそういうことを強く思いました。一方、専門家としての意見はひじょうに大事ですし、市と協力しながらやって参った自負もあります。

われわれは職業奉仕を旨とする組織で、それをクラブの是として集まっている職能集団です。八戸有数の職能集団ですので、われわ

れの専門的知識が災害の中で生かされるように、実際にどういう活動するかに関しては市のそれぞれの部門の方と協議を進めながらやって参りたいと思います。

実際に医療であったり、ライフラインの業務に関する職種に就いている方々は自分の職業で活動していることを優先することになるかと思いますが、その他の方々に実際に行政の負担を減らす業務に携われる方。また行政から相談があったときにそれぞれが属する業界の団体のリエゾンとして、県の団体、国の団体を動かしていけるような活動に関してのアドバイスをしてくれる、そういう活動を会員の皆さんに期待したいというふうに思います。

昨年は三陸津波（明治29年）、関東大震災から100年、日本海中部地震から40年、北海道南西沖地震から30年の節目の年でした。当八戸地区では近年では1968年（昭和43年）十勝沖地震、その26年後の1994年（平成6年）三陸はるか沖地震、その17年後2011年（平成23年）東日本大震災で甚大な被害を被っております。日本海溝、千島海溝周辺海溝型地震も来るものと思って、みんなで準備を進めていきたいというふうに思っております。

われわれの専門性が防災それから実際に災害が起きたときに役立てるよう、これから市とビジネス・コンティニュティプラン（BCP）をきちんと念頭に置いた会議を繰り返しながら、この協定が有益なものとなるように、調印するだけではなく、有益なものとなるように活動して参りたいと思います。本日は市長をはじめ市の関係者の方々、これから県でもロータリーと青森県との協定に関して検討していくことですので、その中で今日お越しいただいた4クラブの皆様方も県、市とどういう形で取り組んでいくのか考えていただきたいと思っております。

本日は熊谷市長はじめ、市の方々にお越しいただきありがとうございます。

協定者署名

紺野会長、熊谷市長は協定書に署名をお願い

いたします。



写真撮影

紺野会長、熊谷市長はご起立の上、協定書を開いたままお持ちいただき、正面をお向きください。



質疑応答

紺野 広会長：当クラブからは県を代表するロータリークラブのガバナーという役職の者を出しております。その者の発案で県のロータリークラブの危機管理委員会の中でわれわれの専門性を活かした災害時の貢献、奉仕はできないものかという議案がたびたび出ておりました。ただ県の中でなかなか意見の一致を見ず、進捗の方は遅々とした状況でした。ですが、われわれは記憶に新しい3.11で防災そして災害対策の必要性を感じ取りましたので、まずわれわれ八戸ロータリークラブと市という最小単位での協定ではありますが、まずそこからスタートしたいということで、昨年度末からクラブ内のコンセンサスを得るための活動をし、そして今日の調印に至っております。

県の方でも折衝しております。それは青森県2830地区というロータリークラブの団体ですが、それがいつになるかまだ見通しが立っ

ておりません。なので、きょうお越しいただいた市内6ロータリークラブとも協議を進めていきたいと思えます。それから青森県に分区というグループがあります。われわれは南グループといい、郡部を含めて計9クラブの団体です。ですので、八戸市が中核市として関連を持っているその他の郡部の方とも締結することも、県の方の締結が時間がかかるようでしたら、そうやって順次広げていくこともお声がけしながら考えていきたいと思っております。

Q1：市の側からどのような支援に関する要請があって、それに対してロータリークラブさんからどのような形で支援をできるのか、その辺りのやり取りを教えてください。

A1：災害がありましたときに、それぞれ個別の被災状況や相談事があるかと思えますので、その辺を市で把握した上で、ロータリークラブさんに相談をし、お願いをし、いろんな業種の方がいらっしゃいますので、それぞれの立場でご支援をいただく仕組みになっております。

Q2：ABAの高橋です。熊谷市長にお伺いします。この大規模災害、災害時にこういった協力しあうという協定は八戸市では1993年からずっと取り組みを続けていて、今回72例目ということ。改めて今回の協定の意義と今後は72例目ですが、今後またどこかのいろんな機関と協定を結んでいかれるのかと思えますが、こういったところと協定の締結やいろんな機関にお伺いすることになるのかと思えますが、こういったところが必要だと思えますか？

A2：熊谷市長：まず1点目ですが、昨年準備をしてきたことですが、1月1日にあのような大きな地震が発生し、改めて防災対策の見直し強化を図らなければいけないというタイミングで、このたびの協定の締結ですので、たいへん有意義だと思えます。これまでにもいろいろな団体と協定を結んできておりますが、今後ともいろいろな状況を把握

しながら必要に応じて、今すぐどこだということではありませんが、必要に応じて協定を締結して参りたいと思えます。

紺野会長：機能喪失や破綻、それから避難再建と長期にわたる災害対策が必要になりますので、それぞれ専門性を活かす支援は可能だと思えます。急性期だけではなく、急性期に需要が一番高いのですが、その時にもできるだけアドバイスをしたり、市役所に殺到する情報提供を求める被災者たちの対応等でもお手伝いできる場所もあろうかと思、というふうには思えます。

最終的にはいろいろな団体との協定もありますので、それらの団体の方々とお顔合わせをいただく機会を市に作っていただければ、職掌ダウンするような、そういう話し合いの場も設けていただければと思えます。

司会：ほかのご質問などありますでしょうか。それでは質疑などないようですので、質疑応答についてはここで終了とさせていただきます。それでは以上をもちまして、協定の締結式を終了いたします。

紺野 広会長：皆様お疲れ様でした。会のはじめに幹事の方からお願いがありました能登半島地震に対する支援金は事務局田名部さんに頂戴すれば領収証をお渡しいたします。当クラブの口座案内も出してありますので、そちらにお振込みいただいても後で領収証を発行いたしますので、よろしくお願います。

今回の協定に関して、多大なるご尽力をいただきました三八五流通グループ社長室長の高谷さんに感謝申し上げます。ほとんど一人で市との折衝をしていただいて、今回の協定に漕ぎつけることができました。本当にありがとうございます。

来週は今19才の右近いろはさん、ウクライナ戦争が始まった当初からポーランドに避難している児童たちに対する支援を現地で行っている方の卓話をオンラインで行います。いろいろな形での支援もあろうと思えますが、

その方のお話を聞いた上で、ひじょうに遠方ではありますが、まだまだ支援の必要なところもあろうかと思しますので、一緒に考えていただきたいと思ひます。

次週は南グループ9クラブにお声かけをしておりますので、南グループとしてまとまった形で支援のあり方を考えられればよいなと祈念しております。

出席報告						出席委員会																	
第3301回例会（1月31日）			第3299回例会（1月17日）																				
出席率		63.5%		出席率		100%		修正出席率		100%													
総会員数		64名		出席数		40名		総会員数		64名		メイクアップした人数		0名									
出席義務会員		63名		出席免除会員		1名		欠席数		23名		出席義務会員		62名		出席免除会員		2名		欠席数		0名	